

ゴミコナダニの 有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：ゴミコナダニに関する有害動植物リスク分析の開始

1 - 1 開始：（開始するに至った問題の本質、目的）

ゴミコナダニは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、ゴミコナダニの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1 - 2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1 - 3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1 - 3 - 1 経路

ゴミコナダニが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

1 - 3 - 2 潜在的検疫有害動植物

ゴミコナダニ（学名：*Sancassania berlesei* (Michael)）を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1 - 4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1 - 5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要性が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2 - 1 植物検疫上の取り扱いに影響するゴミコナダニの特性等

2 - 1 - 1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2 - 1 - 2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2 - 1 - 3 日本での分布状況及び公的防除の有無

ゴミコナダニは、日本全国に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2 - 1 の結論

ゴミコナダニは、日本全国に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和学	名: ゴミコナダニ ^{2), 4)} 名: <i>Sancassania berlesei</i> (Michael) ²⁾ (<i>Caloglyphus berlesei</i> (Michael)) ⁴⁾
英分	名: larger grain mite ²⁾ 類: ダニ目 (Acari) ^{2), 4)} コナダニ科 (Acaridae) ^{2), 4)}

分 布: (日本) 日本全国⁴⁾
(世界) 汎世界的⁴⁾

寄主植物: 貯穀・貯蔵食品^{2), 4)}

形態・生態: 雄成虫には、雌と同じ形の同形雄、第3脚が太く短く変形した異形雄の2種類の雄が出現する。異形雄の方が行動が活発。胴体部の長さは、同形雄で0.6～0.9 mm、異形雄で0.7～1.0 mm、成虫雌の0.8～1.0 mm。体表は滑らかで無色。異形雄は紡錘形、同形雄及び雌はより円形に近い。22℃の湿度飽和の環境で8～9日で卵から成虫まで成育する。1頭の雌が1日で213個、39日間で1,034個の産卵をする。⁴⁾

被 害: 湿ってカビの生えている小麦や、とくにじめじめした環境においたコブラ、亜麻の種子、ラッカセイ等に発生する。養鶏場の古い糞に大発生したことがある。⁴⁾

ベクター

・ 系 統: 植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生 of 有害動植物のベクターとなる旨の記述もない。¹⁾

防 除 法: 貯蔵食品などに対する本種の登録農薬はない。³⁾ 食品のコナダニ類については、一般に加熱、冷蔵、湿度を下げる、発生源をなくすなどの方法が有効とされる。⁵⁾

文 献: 1) CAB International (2011) Plant Protection Database (1972-2011/10). Silver Platter International N. V. (<http://ovidsp.ovid.com/>)
2) 日本応用動物昆虫学会 編 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会、東京: 387pp.
3) 独立行政法人農林水産消費安全技術センター. 農薬登録情報検索システム. (<http://www.acis.famnic.go.jp/>)
4) 梅谷献二・岡田利承 編 (2003) 日本農業害虫大事典. 全国農村教育協会、東京: 1203pp.
5) 松崎紗和子・武衛和雄 (1993) 都市害虫百科. 朝倉書店、東京: 236pp.